

## 町立津南病院 地域医療実習感想文

実習期間：2023年5月8日～6月2日

東京慈恵会医科大学

医学科6年25番

石井 瑛啓

2023年5月8日～6月2日において、町立津南病院で地域医療実習をさせていただきました。東京慈恵会医科大学医学部医学科6年の石井瑛啓と申します。寒さも和らぎ景色の移ろいを楽しむことのできる大変気持ちの良い時期に実習をすることができ、地域医療や津南町について多くのことを知ることのできる貴重な機会となりましたこと、皆様に心より感謝申し上げます。

私が町立津南病院での実習を希望した理由は大きく二つありました。まず一つ目は、地域医療の実際の現場を見てみたかったということです。地域医療についてなんとなくのイメージはあったものの、地域に密着した病院でどのようなスタッフの方々が働き、住民の方々がどのような生活をしているのか、また地域医療の現在の課題はどのようなものなのかなどに関して、具体的に学ぶ機会はこれまでなかったため、学生のうちに地域医療について学びたいと考えました。津南町は人口1万人弱の高齢化が進む地域であり、町唯一の有床病院である津南病院での実習は、地域医療について深く学ぶことのできる良い機会でありました。また、津南町自体について知りたいという思いもありました。大地の芸術祭や星峠の棚田など、以前から行ってみたいと思っていた場所は複数あったため、津南町周辺について多少は知ってはいたものの、実際に訪ねたことはなかったため、複数ある選択肢の中から津南町での実習を希望いたしました。

実習をしていく中では日々新しい発見があり、地域医療や津南町について多くのことを知ることができました。今回の実習において特に印象に残った点としては、地域で住民を支えるということの大切さと難しさについてです。津南町に限らず日本中の地域にて発生している課題として、高齢化などに伴う老老介護や認知介護、高齢者の独居の問題などが挙げられていますが、津南町もその例外ではなく、先のような世帯に多々出会うこととなりました。訪問診療や病院の外来などにて、介護疲れなどの悩みを打ち明ける方が多くいらっしゃったり、また介護の生活の中でも力強く、あたたかく支え合っている方がいらっしゃったりする様には多くのことを考えさせられるきっかけとなりました。そのような中で、地域に密着するかたちで住民の方々の健康を支えている現場を学ぶことができました。大変印象に残っていることとして、病院のスタッフや保健師の方々が、カンファレンスなどの際に、津南町の住民の方の名前を聞くだけでその方の顔や生活の様子を思い浮かべているということがあり、感嘆しました。近年は「誰一人取り残されない」社会が望まれています。津南町はそのような社会を体現している町なのではないかと考えられ、これからの地域のあり方について多くのヒントを得ることができたように感じています。

その一方で、地域医療の現実と厳しさについても学ぶこととなりました。多くの地域と同様、津南町においても深刻な人材不足などが問題となっており、地域で医療を提供し続けることの難しさを目の当たりにしました。これまでは都市部の病院での実習がほとんどであったため、都市部の病院とはまた異なった医療の課題について学ぶことができ貴重な機会となりました。今後日本中でさまざまな医療の課題が出てくると考えられますが、どのような医療のあり方を目指す必要があるのか、また私たちの世代の医師が地域に対してどのような関わりをしていくことができるのかなど、多くのことを考えるきっかけとなりました。

今回の実習では、大変自然の豊かな津南町で、地域の医療についてさまざまな視点から学びを深めることができました。かねてからの願いであった大地の芸術祭の数々の展示や、星峠の棚田を訪ねることができたのはもちろん良い思い出となりましたし、水田の移りゆく姿、お米や旬のアスパラガス、龍ヶ窪の美しい風景など、どれも心が動かされる貴重な体験となりました。学生という立場から貢献できることの少なさにもどかしさを覚えながらも、さまざまな面で実習を支えてくださった津南病院のスタッフや津南町福祉保健課の皆さま、津南町の住民の方々など全ての方にお礼申し上げます。ありがとうございました。